

ノーリフティンぐケア 実践報告



社会福祉法人奥入瀬会
特別養護老人ホーム百石荘

法人の紹介

従業員：約200名

- ・ 高齢者事業所 17カ所
- ・ 認定こども園 3カ所

特別養護老人ホーム百石荘 開始前

1 施設又は事業所

施設名	特別養護老人ホーム百石荘	
法人名	社会福祉法人奥入瀬会	
所在市町村	おいらせ町	
常時雇用する労働者数(注1)	38名	
入所(利用)定員	50名	
入所(利用)者の平均介護度	4.3	

開始前の職場環境

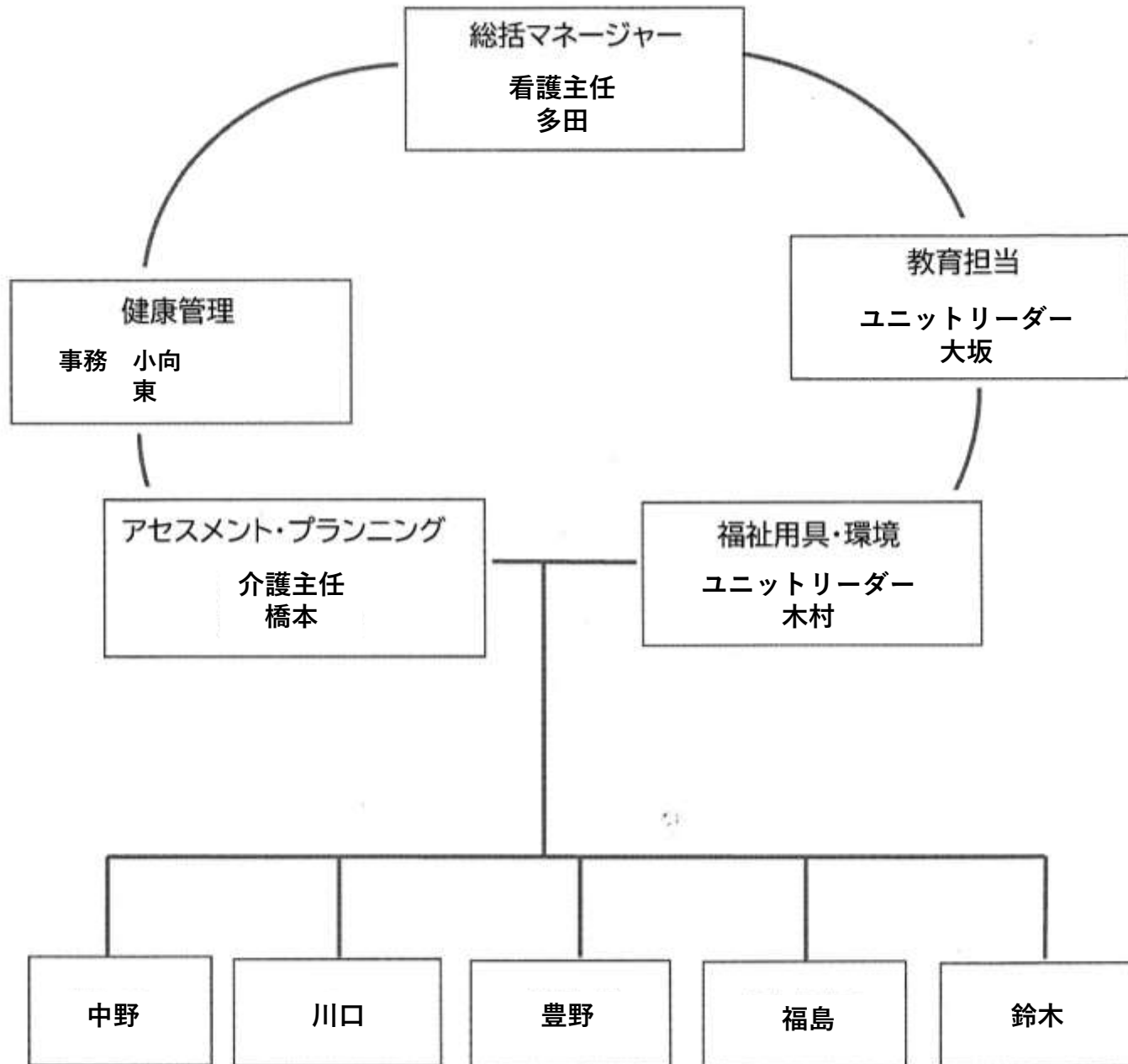
介護業務に従事する労働者数(23名
上記のうち、腰痛保持者数(16名
職場内の腰痛発生要因と考えられる事項	利用者様の重度化により、中腰姿勢でのベッド上でのおむつ交換・入浴介助の業務が多い。また抱え上げによる移乗の回数が多いことも要因と考えられる。
腰痛に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none">・腰痛予防ベルトの着用・抱え上げ等をなるべく一人で行わないようにする(二人介助の取組み)・腰痛予防のための、体操・ストレッチの実施(理学療法士指導のもと)・スライディングボードの使用・介護機器の見直し・定期的な交換

3 目標【モデル施設向け研修終了後、どのような状態になっているか】

- ・ 職員の腰痛をゼロにする
- ・ 拘縮を作らない施設にする
- ・ 介護者の腰痛を防ぎ、離職率の低下につなげ人材確保を目指す
- ・ 介護者の意欲向上につなげる



推進チームの組織図



リンクスタッフ

ノーリフティングケア理解度チェック

STEP1 チェック

ノーリフティングケアの必要性について下記の問題を考えてみましょう。
○×で答えてください。

問い	質問	解答
1	ノーリフティングケアとはリフトなど福祉用具を用いて実施するケアのことである。	
2	ノーリフティングケアは重度の障害を持った方に行うケアのことであり軽度者の多い施設や在宅で家事援助の場合は関係ない。	
3	「抱え上げないケア」は、特に決められたものではないが、できるだけ行わないようにする方が良い。	
4	医療や福祉では、重度の障害を持った方が多いので、その人のQOLを考えると抱え上げは仕方がない。	
5	管理者は、原則、「抱え上げるようなケアをさせてはいけない」と定められている。	
6	福祉用具ケアは時間がかかるから、できるだけ急いがないければいけない医療や介護現場にはそぐわない。	
7	福祉用具ケアは自立を阻害するからできるだけ、人力で行った方が良い。	
8	腰痛予防の取り組みは管理者が行うものである。	
9	ノーリフティングケアの目的は、働き方を変えて誰もが安全に働ける職場を作ることである。	
10	ノーリフティングケアは職員の腰痛を予防するためのものであり、対象者の状態には関係ないし実施をしても変わらない。	
11	ノーリフティングの取り組みは、管理者の元、組織全体での取り組みとし、職員一人ひとりが意識して行っていく必要がある。	
12	うちの施設では福祉用具が無いからノーリフティングの取り組みは実施しない。	
13	リフトなどは所詮機械であり、やはり人の手で介助をすることが心がこもってやさしいケアになる。	
14	福祉用具ケアは対象者の状態に合わせて選択して使用することで自立支援にもつながる。	

正答率

- ・ 介護職
- ・ 事務
- ・ 調理

87.8%

96.0%

84.5%

ノーリフティングケア理解度チェック

STEP2-① チェック

自己管理について下記の問題を考えてみましょう。○×で答えてください。

問い	質問	解答
1	職員の衣服はノーリフティングには関係ない	
2	サンダルなど踵のないものや、不安定な履物はケアには向かない。踵を覆う靴を着用することが望ましい。	
3	身体の冷えも身体的負担、痛みに影響するので襟のある衣服やアンダーウェアを着用することが望ましい	
4	ノーリフティングケアは抱え上げないので介護者は筋力や柔軟性など身体のことは気にする必要はない。	
5	栄養や睡眠・休養なども身体を守るためには大事である。	
6	仕事に入る前後にストレッチをすることを習慣化すると良い。	
7	肥満は腰痛には関係ない	
8	職場での腰痛調査は痛みが無ければ特に協力しなくてよい。	
9	腰が痛くなければ抱え上げるケアを行うことは問題ない。	
10	福祉・医療現場の腰痛は原因がはっきりしない、身体的に負担のある仕事を繰り返すことで徐々に発症する非特異的腰痛が多い。	

正答率

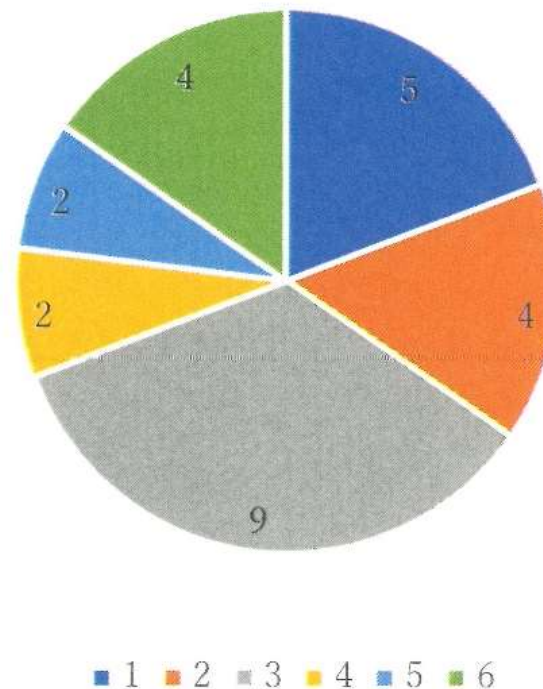
- ・ 介護職 97.9%
- ・ 事務 98.6%
- ・ 調理 99.2%

腰痛調査

健康チェック総評 「特養」計 26 名

1. 腰痛はありますか？

1.常に痛い	5
2.時々痛い	4
3.たまに痛い	9
4.痛みまでは感じないが腰が疲れやすい	2
5.今は痛みがないが以前痛めたことがある	2
6.痛くない	4



<対策>・湿布を貼る (5)・コルセット、腰痛ベルト装着 (3)・通院 (3)・リハビリ体操 (1)
・ストレッチ (3)・体操 (1) マッサージ (2)

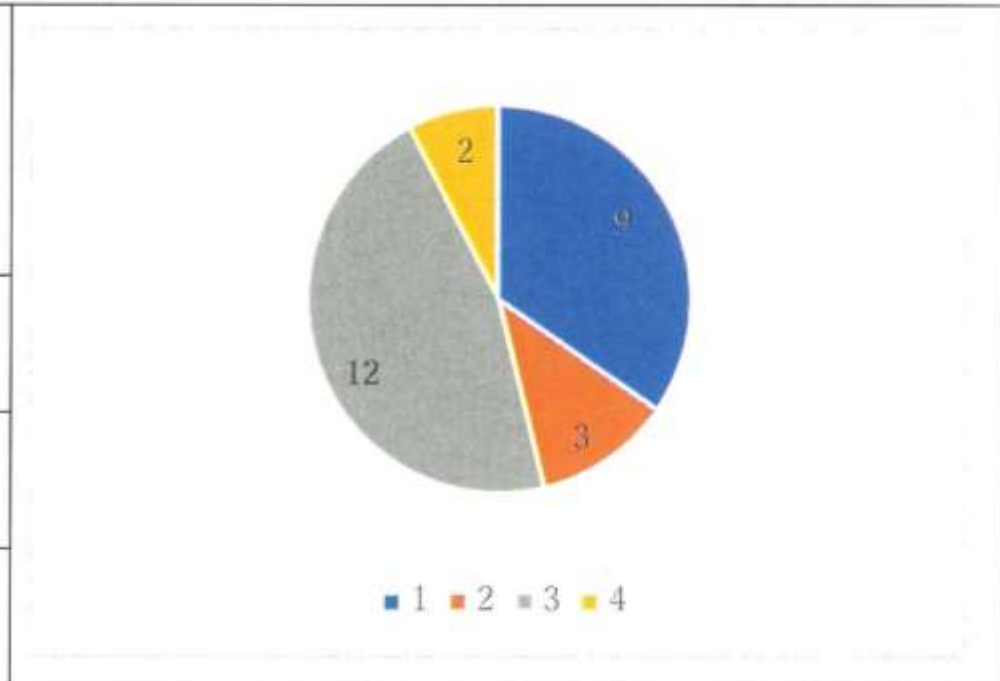
2. 腰の他に痛みはありますか？

1.ある	14
2.なし	12

<他の痛み>・頭痛 (1)・首が痛む (2)・右股関節が痛む (1)・肩こり、痛む (7)・手首が痛む (3)
肘が痛む (4)・踵 (2)・背中 (3)・膝 (2)・手、指 (1)

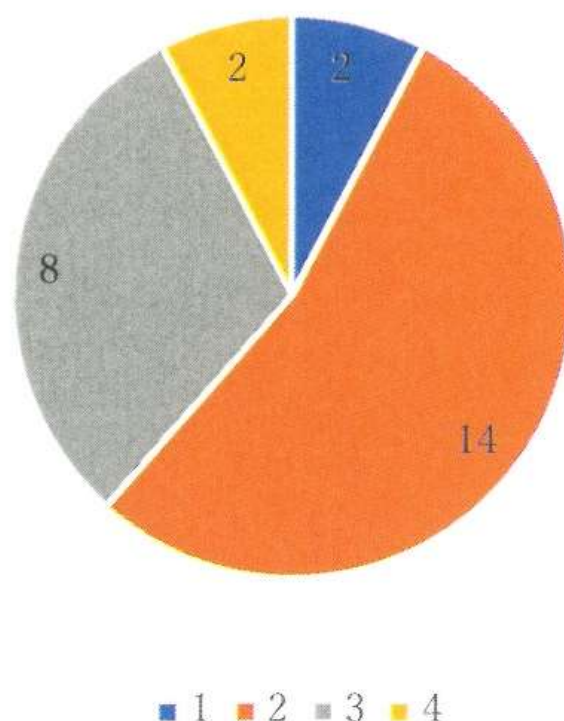
3. 疲労感がありますか？

1.とても疲れやすい。休んでも疲れ が抜けない	9
2.疲れやすいが休めば抜ける	3
3.以前と比べて疲れやすくなった	12
4.問題を感じない	2



<気になる点>・疲れやすいというより、疲労が抜けず、徐々にたまっていく、残っている状況。
・1日の休みで抜けない。

4.精神的な疲労はありますか？

1.気持ちが沈んで仕事をする のもしんどい	2	
2.気持ちが沈みがちだが仕事 には支障はない	14	
3.特に問題は感じない	8	
4.楽しく仕事ができている	2	

<気になる点>・疲れ（慢性的）により、集中力が維持できにくい状況ではある。

・表には出さない様になっているが、内面はイライラし、酷くなると泣きそうになる

研修の取り組み経過

- ① ノーリフティングケアを取り組むための、意識・知識が不足していた。また必要な福祉用具も少なく、**0**からのスタートで開始！
- ② 5月：ノーリフティングケアの知識をスタッフに講習。
- ③ 5月：腰痛調査、リスクに対する対応策を実施。
- ④ 6月：スタッフの健康管理の体制、利用者アセスメント開始。
- ⑤ 6月：スライディングシート、グローブ、寝返り実技講習の実施。

⑥ 7月：環境整備、リスクマネジメントの体制を整えている。

⑦ 7月：スライディングボード、起居、立ち上がり、座り直しの技術講習実施、福祉用具の管理。

⑧ 9月：床走行リフト、スタンディングリフトの技術講習実施。

⑨ 9月～10月：アセスメント完成

⑩ 10月：取り組み状況を施設長へ報告。取り組みが認められ、ノーリフティングケアが推進されていく。

① 腰痛調査結果に対する対応策	② リスクマネジメントに対する対応策	③ 結果・効果
不良姿勢を調べる	① ベットの高さをその都度調整する	<ul style="list-style-type: none"> ● ギャッジアップを効果的に使えていなかった（特に足側）事に気付いた ● リモコンを使用する事で楽にできた
	② 柵をしたままのおむつ交換が見られていた	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全面を考えて行っていた者もいたが、見直しを行い、腰への負担を理解した
	③ トランスファー時の体の使い方	<ul style="list-style-type: none"> ● 持ち上げが主になっていた事に気付いた

不良姿勢の例



①腰痛調査結果に対する 対応策	②リスクマネジメントに対する 対応策	③結果・効果
(STEP2 の教育を通して) 利用者の気持ちを理解する	①介護される側を体験する	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護者の手が体に入る際、痛みを感じた。この不快感が筋緊張につながるのではないかと感じた ● 利用者の気持ちを意識するようになった ● 足が床についている事で安心して介護してもらえた
腰痛調査結果にて、精神面に 疲労が強いスタッフ 3 名	メンタルヘルス面談を行う	
定時にストレッチを行う	ストレッチを放送を通じてスタ ッフに行ってもらう	

※クロックスやナースシューズを廃止して、全職員踵のあるシューズを履いている。達成率 100%

今後の課題

- ①ベッドの高さ調整を活用し、負担の少ない姿勢で介助していくように指導していく
- ②エアーマット使用者が19名いるが、トランスファー時、座位保持が安定しない為、オムニマットの使用を検討
- ③体のメカニズムの理解が不可欠
- ④残存能力を活かす重要さを実感するとともに、個々のアセスメントの重要性を感じた。
- ⑤実践・実感してもらおう事で、理解度が増した¹⁶ので、今後もとり入れていく

教育体制

○マニュアルの作成(動画、写真を使用し作成)

- ・ケア用
- ・教育用(実践テキスト、技術指導の為の動画作成予定)

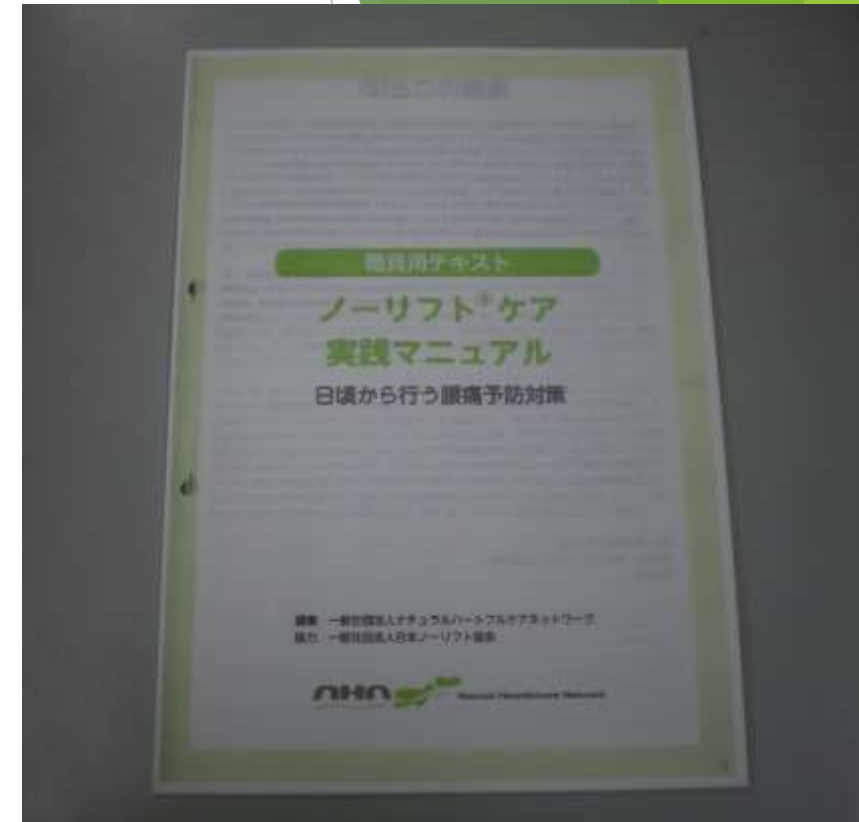
○新人、在籍職員指導頻度

- ・半年に1回実技講習、現場でチェック項目を使用し確認。
(委員会メンバーが就業時間にチェックを行う。)
- ・新人職員は、入社して2週間指導期間中に実施。

○講師の育成について

OFF JT . . . ベーシック研修への参加。

OJT . . . 教育担当大坂が実践テキスト(指導者用)使用し、講習していく。



対象者へのアセスメント 様式

1 対象者の抽出

- ・ 残存機能を有効活用できていない方
- ・ スタッフの介助方法に統一性がない方

2 アセスメント

- ・ 研修様式を使用し、アセスメントを行う

3 アセスメント終了時期

- ・ 毎月15名を目標に、9月末終了予定

ノーリフト 対象者のアセスメント

氏名		病院	
介護度		障害	
身長		体重	痛みなど

	本人の身体機能	現状のケア	実施していくケア
認知面 理解度			
コミュニケーション			
動き			
寝返り			
ベッドでの 上下運動			
ベッドでの 横移動			
起き上がり			
立ち上がり			
移乗			
歩行			
トイレ動作			

課題	
目標	
工夫	

アセスメントの実施状況

- ① ノーリフティング推進メンバーとリンクスタッフにより、アセスメントを行う。
- ② 9月末で50名全員終了。達成度100%
- ③ 10月以降福祉用具の優先順位を決める。

アセスメントを実践しての気付き

- ①ADLの把握が曖昧で、介助方法の統一が大きな課題である
- ②介助方法の統一と伝え方・伝える方法も再検討が必要
- ③利用者様一人一人に対して、残存機能の活用や、福祉用具を使用する際の最善の方法を考えることができた
- ④アセスメントの取り方の指導方法・伝え方を見直す機会となった
- ⑤ケアプランに落とし込んでいけるよう全スタッフに指導していく

技術：寝返り、シート・グローブ使用の理解

実施期間 7/1～1ヶ月間
時間帯 勤務時間内 20～30分
実施人数 2～3名（理解度を把握するため）



技術講習からの気付き

(スタッフの視点から)

- ①スライディングシート利用の際、横移動のしやすさを実感した。
上下移動の際、今までの抱える介助の苦痛を実感するスタッフもいた
- ②体重移動で利用者様の横移動が行い易いという意見もあった
- ③勤務年数が長いスタッフほど、体重移動がうまくできず、腕の力に頼っていた。
- ④体重移動での介助は行っていなかったため、足がきついと訴えたスタッフがいた。
- ⑤朝の体操の時間に腰痛予防体操の中に、体重移動の動作や筋力トレーニングも行う

技術講習からの気付き

(利用者様の視点から)

- ①グローブ使用の際、介助時手を入れる場面では、痛みや不快感を感じた。
- ②硬いマットの方が、スライディングシートの効果があった。
- ③エアーマット使用時は、グローブ使用が効果的であった。腕にかかる利用者様の体重がエアーマットの効果で分散され、体験したスタッフもあまり不快感を感じなかった。

腰痛予防体操

- ▶ 朝の朝礼前に1回、朝夕の申し送り時に1回ずつ行う。(計3回)



環境整備

1 タッチポスターの活用



不定期で内容
を変更してい
く。
※現在2回目

2 ノーリフティング取り組みボードを作成。



環境整備



スライディング
シート入れ
作成
※現在3カ所

ごみ箱に台車
を装着。
持ち上げない
ように工夫!!



リスクマネジメント体制を整える (インシデントを収集する)

- 手順

- ① インシデントの具体例を挙げ、取り組み内容について説明をする。
- ② お気付き箱を設置し、回収・検討する。
- ③ 週に一度、箱を確認し、緊急性の高い内容から取り組む。

期間	インシデントの内容	対応策	実施	
			誰が	いつまでに
8/5 (7/30~8/5)	リクライニングを廊下に置くが、飛び出している所がある。	リクライニングを置く位置を決め、緑のテープを張り位置を固定する。	橋本	8/6までに終了。
8/5	物品使用時元の場所に戻してほしい。次に使う人が分からず、探している間時間がロス。	SS入居者のチェック時カメラを使用しようと思って探さないといけないとの事。もう一台購入。	全スタッフ	購入検討。 持ち出す時は、声を掛ける。
8/19	爪切りを買ってください。	8/21事務へ購入依頼する。		8/23 6本購入 済み

技術：スライディングボードの使用と理解

全職員がSTEP 4、5使用方法まで理解できている。

(起き上がり、立ち上がり、座り直し、スライディングボード)

• 手順

- ①7月中に職員用テキストを配布し、職員に伝えていく。
- ②8月中に2回に分け、技術講習を行い、伝えていく。
 - 4つのグループに分かれて、指導していく。
(座り直し、起き上がり、立ち上がり、ボード)
- ③技術チェックシートを使用し、出来ているか評価する。
 - 出来ていないスタッフには、個別で技術指導する。

技術講習の気付き

①グローブがベッドに面している部分に手を入れ動かす事で、今までやっていた事が、引きずりで皮膚剥離や褥瘡に繋がっていたのではないかと感じた。

②時間がかかるという意見もでたが、相手の了解を得て待つ時間と声掛けをしながら起こす時間と比較してみましようと思っかけた。

③身体の使い方を再確認出来て、立ち上がり等、動きのメカニズムに対しても理解できたと感じた。

④ポジショニングの重要性、正しく座ることの重要性を話すことで、ノーリフティングの必要性を実感できた。



実施計画 特別養護老人ホーム 百石荘	
目標	①全職員がSTEP5、リフト、スタンディングリフトの使用方法について理解できている。
計画	全職員がSTEP5を理解し、実施できる。
具体的手順 1 業者から、何のリフトを貸出できるか確認する。 2 貸出できる中からアセスメントし、利用者様をピックアップする。 (利用者様に適応した福祉用具のリストを作る)※まだ作成中。未完成です。 3 スタッフに実践テキストを活用して、講習する。 4 貸出リストを活用して、スタッフに対して技術講習していく。 (2回に分けて実践)10/16、17に業者の方に説明を受け、実施。 5 実際に対象利用者様へリフトを実践し、実践テキストチェック用紙を活用し評価していく。	達成度：70% 業者名：パラマントベッド 床走行リフト1台 スタンディングリフト1台 貸出受ける。 16日に業者の方から説明受けて講習する。 17日は受けられなかったスタッフに個別で講習を行う。 床走行2名 スタンディング2名 利用者様に実践しているがスタッフ大坂のみ実践。
技術講習からの気付き 床走行リフト <ul style="list-style-type: none"> ● リフトで持ち上げられた時に体に掛かる圧が分散されている為、痛みもなく、不快も感じられなかった。 ● リフトで持ち上げられた時のポジショニングが良い為、車椅子に移してもそのままの姿勢で維持できる。全職員リフトの必要性を感じている。 ● 人力での持ち上げ介助とリフトでの持ち上げ介助の体に掛かる負担の違いを全職員感じている。 ● 実際にリフトを使用してみて、リスクアセスメントを行い、どこに注意すべきか、対処方法などを検討する意見も出ていた。 	
スタンディングリフト <ul style="list-style-type: none"> ● 楽に立ち上がりが出来ていることに驚きの声が上がっている。利用者様からの視点でも、最初は怖いと思う可能性があるが、活用していくことと、コミュニケーション方法で怖いイメージを徐々に緩和できると声が挙がっている。 ● 利用者に応じて、スリングシートのサイズも準備していくことが、活用してみて分かった。 ● 今回利用したスタンディングリフトだと車イスのフットレスト部分も開閉できるタイプの車イスが必要であると考えられる。その為、今後車イスを購入する際にも、様々なポイントを見てから購入検討していきたい。 ● 今回のスタンディングリフトはスリングシートのもたれ掛かって立ち上がるタイプの為、業者の方より指示が入る方と指導を受けている、実際に利用者様2名ピックアップして体験して頂いた。特に身体に突っ張りがある方はスムーズに立ち上がる事が出来ている。利用者様に応じて、リフトのタイプも考慮していく必要がある事を改めて実感している。 	

9, 10月の取り組み



研修の取り組み経過

- 11月 ノーリフティング委員会を結成。推進メンバーで構成している。
シートを活用しての寝返りの講習。
ムーブボードの実技指導。
- 12月 健康調査実施。
福祉用具購入(ムーブボード)実施。
- 1月 福祉用具購入(床走行リフト、スタンディングリフト)実施。

ノーリフティング委員会発足！

- ・会議開催

毎月の25日に月1回で開催
時間14時から

- ・会議内容

現状報告を行い、その月に出た課題や結果を報告していき、対応対策を検討していく。

今後の他事業所への推進と、活動内容を話合っている。



1 1月の取り組み

- シートを使用しての寝返りの講習。大体半数は実技指導終了。
 - スタッフの勤務内にて個別に技術指導している。
→気付いた点として。
 - 柵をとって介助しないと危険性がある。(時間が無いと柵をしたまま行う可能性がある。)注意の呼びかけが必要。
 - スタッフに柵を外しての介助を徹底して促す。



ムーブボードの実技研修。

- 特浴の外介助と中介助で使用可能と考える。
- 職員の中で特殊浴槽の場合はどうしますかと職員から疑問が挙がった。検討した際に、高知県視察の際に、ムーブボード使用している実例がある為、業者に連絡しレンタルして実践を行っています。



ムーブボード購入！

・ムーブボードも中用と外用で大きさを変えている。特浴リフトとストレッチャーでは幅が狭い為、小さいボードが抜けやすく活用しやすかった。

・入浴後外介助が来るまで移乗できないと使用して分かった。トランシーバーを外用と中用で2個用意し活用する。

・ムーブボード使用者を固定している。誘導、移乗介助専門スタッフを配置している。
・中介助の場合、中介助者と誘導、移乗介助専門スタッフ。
・外介助の場合、外介助者と誘導、移乗介助専門スタッフ。配置固定して取り組む。

・土曜日は人数が少なく誘導、移乗介助専門スタッフがない場合その日のユニット担当者が代わりに行っていく。

ムーブボード活用で
特浴時**持ち上げ0**を
達成!!

外介助用



中介助用



12月健康調査実施。 4月との比較。

健康チェック 4月 (26名)、12月 (28名) 「特養」

1. 腰痛はありますか？

	4月	12月	増減差
1.よくある	5	6	(+) 1
2.時々ある	13	5	(-) 8
3.痛くない	8	17	(+) 9

2. 腰の他に痛みはありますか？

	4月	12月	増減差
1.ある	14	10	(-) 4
2.なし	12	18	(+) 6
<他の痛み>・首が痛む (5)・肩こり、痛み(6) 肘が痛む (4)・踵 (2)・背中 (2)・膝 (2)・手、指 (1)			

3. 腰のコリやだるさはありますか？

	4月	12月	増減差
1.よくある	7	6	(-) 1
2.時々ある	13	6	(-) 7
3.特になし	6	16	(+) 10

4.最近1カ月の疲れ具合はどうか？

	4月	12月	増減差
1.1日休んでも疲れが取れない	9	2	(-) 7
2.翌日にも疲れが残る	12	15	(+) 3
3.1晩寝るととれる	3	9	(+) 6
4.疲れは感じない	2	2	(±) 0

5. 過去1年間、肩や腰の症状で治療を受けましたか？

	4月	12月	増減差
1.最近1カ月にも治療受けた	2	2	(±) 0
2.あるが最近1カ月はない	8	6	(-) 2
3.ない	16	20	(+) 4

・徐々に腰痛保持者が減少している結果となりました。

・元々通院しているスタッフからは、まだ実感が湧かない状況であると、話があるも、床走行リフトやスタンディングリフトを使用して、「これだと、腰が楽で良い」と共感は得られている。今後も実践していき、調査をしていく事で、腰痛保持者を少しでも減らしていけるようになっていく。

床走行リフト、スタンディングリフト購入!!



- ・デモ機を数回レンタルし、職員の講習と同時に利用者様へ実践を行っている。

利用者様に適応したリフトを購入出来ている。

- ・様々なスタンディングリフトをレンタルして行く中で、使用時に上手く立ち上がることが出来ず、業者へ連絡している。機械に特徴があり適応しない利用者様がいる事が分かり、結果両リフト、パラマウントベッドのリフトを購入している。

- ・床走行では、数名ピックアップ(体重が重い方、抱え上げづらい方)を中心として活用。

- ・スタンディングリフトでは、トイレ利用や立位保持訓練も兼ねて使用している。

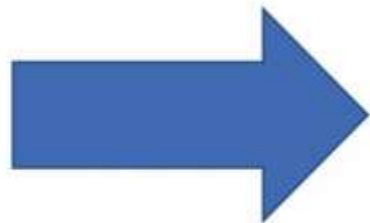
スタンディングリフト活用!!

男性入居者、スタンディングリフト使用し、立位保持訓練を行う。排便も毎日下剤服用しても3, 4日出ない日が多かった。

立位保持訓練を行うことで、立ち姿勢が良くなり、排便間隔も毎日自然排便で出るようになる。下剤の量も徐々に減らしている段階。



2週間、毎日10～20分立位保持訓練実施。



ノーリフティンングケアでアセスメントした利用者様をケアプランに反映し実施！（3月から）

生活上の課題（ニーズ）	実現可能な生活の目標				支援内容			
	長期目標	（期間）	短期目標	（期間）	サービス内容	担当者	頻度	期間
トイレ利用時や立つときなど、立位が取れなくなっている。	転倒のないように過ごす。	R2/3/1～ R2/5/31	安全にトイレに行けるようにする。	R2/3/1～ R2/5/31	①トイレに行くときはスタッフに声をかけるかトイレのNCを押すよう声掛けする。②夜間帯トイレに行けそうにないときは本人に確認しておむつを着用する。 (本人や家族がしていること・できていること等)	全スタッフ	毎日	R2/3/1～R2/5/31
糖尿病があるので体重増加を防ぎたい。	体重を増やさずに好きな物を食べる事が出来る。	R2/3/1～ R2/5/31	運動と食事の管理が出来る。	R2/3/1～ R2/5/31	①毎月の体重チェック。②月に一回体重測定をし、看護・栄養士と相談しながら体重コントロールをしていく。③居室におやつを隠している時がある為、ユニットに入ったスタッフはケアの最初に居室チェックする。 (本人や家族がしていること・できていること等)	全スタッフ	毎日	R2/3/1～R2/5/31
自然に排便し、スッキリしたい。	毎日排便が出来る。	R2/3/1～ R2/5/31	排便コントロールが出来る。	R2/3/1～ R2/5/31	①ケア時、スタンディングリフト使用し、立位保持・立ち上がり訓練を行う。②AM・PM15分程、立位保持行う。 (本人や家族がしていること・できていること等)	全スタッフ	毎日	R2/3/1～R2/5/31

福祉用具購入の流れ。

- ①アセスメントシートを活用。福祉用具検討
- ②福祉用具レンタルして活用。(職員の技術指導)
- ③モニタリング(利用者様に使用)
- ④評価
- ⑤福祉用具導入。

福祉用具の管理

- ・ リクライニング式車いす 24台
- ・ 車いす（通常タイプ） 40台
- ・ 跳ね上げ式車いす 4台

浴室

- ・ 特殊浴槽 1台
- ・ 座位入浴装置 1台

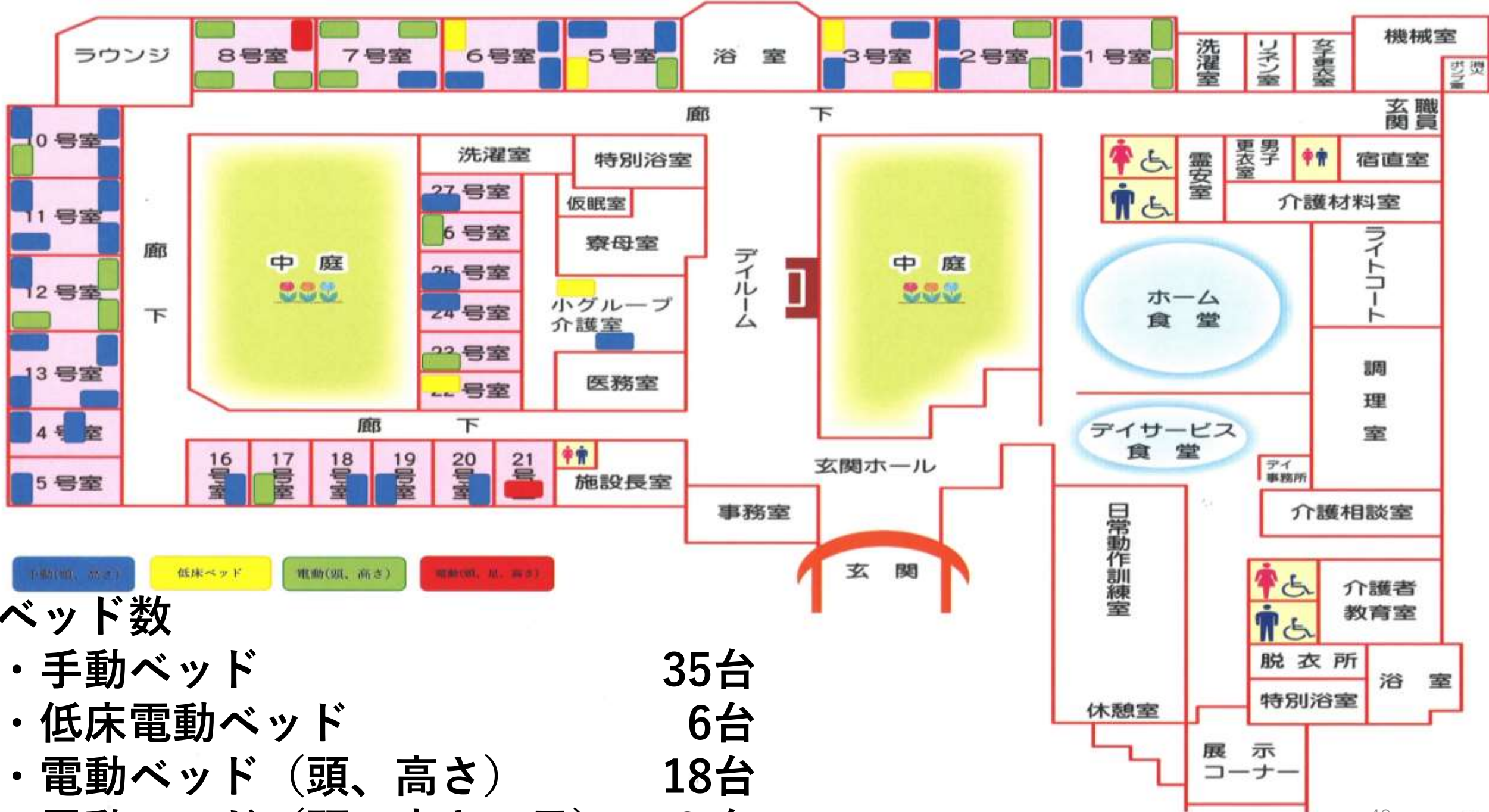


研修中に購入した福祉用具一覧

- スライディングボード 2枚
- スライディングシート 4枚
- グローブ 3組
- ムーブボード(大)外介助用 1枚
- ムーブボード(小)中介助用 1枚
- 床走行リフト 1台
- スタンディングリフト 1台



スリングシート2枚
スリングシート2枚



ベッド数

- ・ 手動ベッド 35台
- ・ 低床電動ベッド 6台
- ・ 電動ベッド (頭、高さ) 18台
- ・ 電動ベッド (頭、高さ、足) 2台

取り組み結果と今後の課題

○職員の変化

- ・まだ全員ではないが、積極的にノーリフティングに取り組むスタッフが増えてきている。
- ・初めは乗り気では無いスタッフも「この利用者様には、リフト使えるところなんだけど…」という福祉用具の提案の声も挙がるようになってきている。
- ・抱え上げ介助が少なくなり、腰痛の減少も見られるようになった。

○利用者様の変化

- ・リフト等行うことで立位姿勢や座位姿勢が良くなった。
- ・廃用性があった方でも、トイレに行きたいと意欲的に声が出る様になった方がいる。
- ・痛くない、楽だねえと利用者様から声が挙がり実感してもらえている。

○今後の課題

- ・全職員がノーリフティングに取り組んでもらえる様に今後も職員を巻き込んでいき、習慣化・定着化していきけるように寄り添って行く。
- ・利用者様にも職員にも安心して安全なケアが実証できるように今後も取り組んでいき、双方優しいケアを目指して行く。
- ・抱え上げ0を目指すため、今後も利用者様をアセスメントしていき、適合する福祉用具や環境を整えていきたい。
- ・ノーリフティングケアを他の事業所や地域にも伝えて行けるように対策していき、全員が安心して安全なケアに取り組んでいけるように体制を作っていく。